

演題番号

1-3

「9年間の学びの連続性を意識した外国語活動」

【3年間の研究】

本校では、学校研究を「肢体不自由特別支援学校の集団授業における思考力・判断力・表現力を育む授業づくり」と位置づけ、小学部と中学部を合わせて9年間在籍する児童生徒の学びの継続と系統的な学習の積み重ねを深めていくことに取り組んできた。

平成30年度より「リズム」「ずこう・美術」「せいかつ・体験」の3教科については、集団授業のすべてにおいて9年間の学びの年間指導計画一覧を完成させ、個の違いがあっても学習内容をスタンダードな形で位置づけ、その中で子どもの状況に応じた授業展開ができるように整えてきた。

令和4年度は、過去3年間の研究を生かした授業づくりとして、外国につながるの深い横須賀市の地域性からも、英語を用いて児童生徒が楽しみながら考えや気持ちを伝えあう要素を取り入れた研究をすすめた。

【目的】

本校が大切にしてきた外国語活動

- 1、外国語に親しむ
- 2、外国語の文化に触れる
- 3、新鮮な驚きと知る楽しさを体感する授業
そこはALTによって更に特別な空間であること

教育改革で転換期を迎えた「外国語活動」のコミュニケーションを重視した学習展開に着目。本校では国際理解教育の一環として、子どもの実態に応じ、外国の生活や文化に触れ親しむ体験的活動を実施してきた。

本校が大切にしてきた上記3つのポイントを柱に、各ブロックの特色を子どもの実態に合わせて、9年間の学びの連続性をより感じられる内容として再構築した。

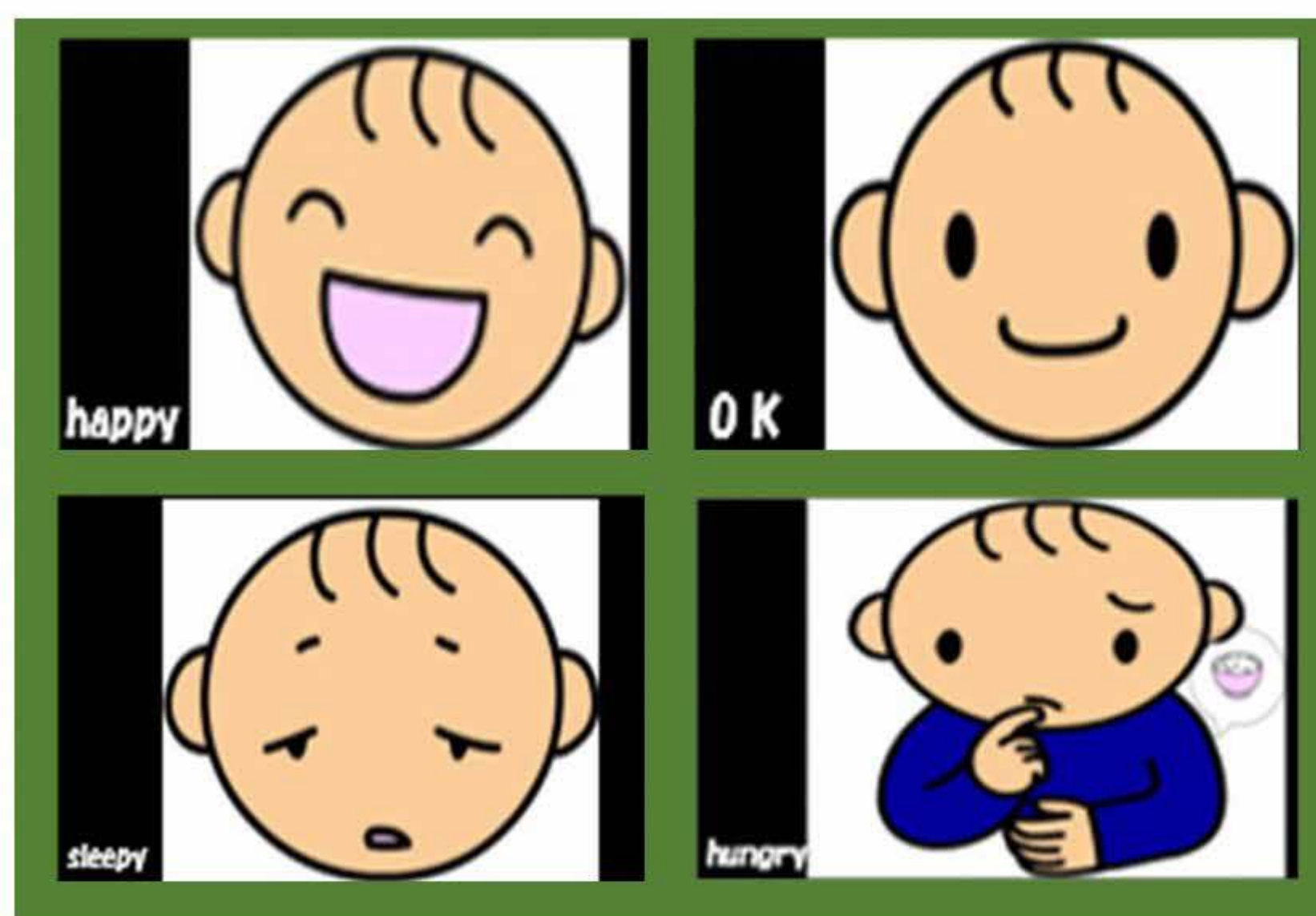
【内容】

9年間の学びの連続性 ～年間指導計画&Feeling～



●9年間をつなぐ年間指導計画
子どもの実態に合わせ、授業を積み重ねが有効となるために授業展開のパターン化を図り、9年間継続的な学びに考慮した授業内容、年間指導計画の再構築を図る。

●Feeling
毎時間、気分を表現する活動を全ブロックで行う。単語の視聴覚支援として、わかりやすいパネルの提示や効果音の他、ジェスチャーも加える。子どもの実態に合わせてFeelingはブロックで異なるが、学びを積み重ねられる活動として学校全体で取り組む。



小学部低学年ブロックでは外国の言語や文化に児童が楽しく「出会う」ことができるように4単語に絞り学習した。

ドロップスは大型画面の他、手元カードを児童に準備した。Happy、Ok、hungry、sleepyのFeelingを毎回友だちの表情の映像を繰り返し見て学習した。また、見えの難しい児童への手立てとして効果音や児童になじみのある音楽等を使用した。



小学部高学年ブロックでは、Feelingを象徴する色枠で大きな額を作成、中に児童が顔写真を貼れるようになっていた。

Today's Feelingで扱う単語のドロップスを大きく掲示した他、iPadを各Feelingごとに準備し、児童が選んだFeeling画面に触れると単語が発音されるように設定した。ALTの発音がいつでも聴けて、耳でも慣れるようにした。



中学部では、手で各自が活用する。カードにドロップスや写真を載せ視覚化し、写真と同じジェスチャー表現をする活動も行った。見ることに課題がある生徒は、効果音を入力したスーパーターカーを活用した。

日常生活でも活用できるように、身近な行事や手遊び歌を取りあげ、言語や体の動き、表情等で表現する活動を行った。また、海外では会話のきっかけになるFeelingを授業の初めに行った。中学部は、同じFeelingで集まり、ALTの「How are you?」にグループで「I'm ~」と答える活動を行った。

【実態把握】

本単元の目標	具体的な手立て	授業での表出の変容
クリスマスを題材とした活動を通して、楽しい、嬉しい、感謝の気持ちを体験し、感じたことが表情で表せるようにする。	本人がその場で表出した気持ちを感じ取り、「嬉しいね」「楽しいね」「Happyっていうんだよ」など丁寧な言葉でフィードバックする。	Feelingボードのタブレットの音を聴き、「SAD」に眉を動かして反応した。サンタに声をかけられゆっくりと視線を動かしたので「サンタさんだよ」とひげを触らせてもらうとぎゅっと握り、「サンタ」の存在を確かめられた。「抱っこ」のプレゼントに笑顔になり、「happy」を確かめた。

◎具体的な手立てには「どのタイミング」で、「どんな支援」をすすめるかを明確に記入する。その際、期待できる表出をイメージし、それを促す手立てが明記できるとよい。

◎授業での表出の変容には「どう反応したか」「どの程度であったか」を数字等も使い記録する。時系列で比較する際、反応の速さや違いが成長として見取りやすくなる。

【考察】

- 1、日常への還元
- 2、経験の積み重ね
- 3、目標、指導の手立ての具体化
- 4、教員の協力体制

外国語活動をより効果的な学びの時間にするために、以上のことが欠かせない。

実践した「Feeling」を9年間の学びを積み重ねることができ活動として今後も継続し、子どもたちに気持ちを伝えあう楽しさを味わわせていきたい。

海外に拓けた横須賀の土地柄にあった、外国語で対話を楽しめる学びの模索を続ける。